

■これまでの経緯

【2020令和2年度 文化財修復検討委員会合同WG】

- ・(7/3石垣・構造)石垣履歴・被害状況の報告 石垣解体修理範囲案の検討
- ・(10/9建築・石垣・構造)石垣解体修理範囲案の承認(H121・H122・H124)
- ※最終的な範囲はR3年度の解体修理時に決定する
- ・(12/15石垣・構造)平櫓周辺石垣解体修理案範囲案の承認
(H143-1・H146-4・H437-1・H437-2・H438-1・H145・H146-1・H146-5・H435・H437)

【2021令和3年度 文化財修復検討委員会】

- ・(9/13-15現地視察)危険部位の措置(案)及びH121・H122の解体範囲案の承認
- ・(10/18)平櫓周辺石垣 危険部位の措置の報告
H121、H122の解体範囲案の再検討結果の報告
- ・(2/2)石垣復旧措置(案)の提示
現地視察にて最終解体範囲の承認

【2022令和4年度 文化財修復検討委員会】

- ・(9/22)石垣復旧措置(案)の再提示⇒承認(ジオテキスタイル＋鉄筋挿入工＋受圧板)
- ・(2/1)石垣復旧措置(案)の追加検討の報告(受圧板を省略し、景観を確保)

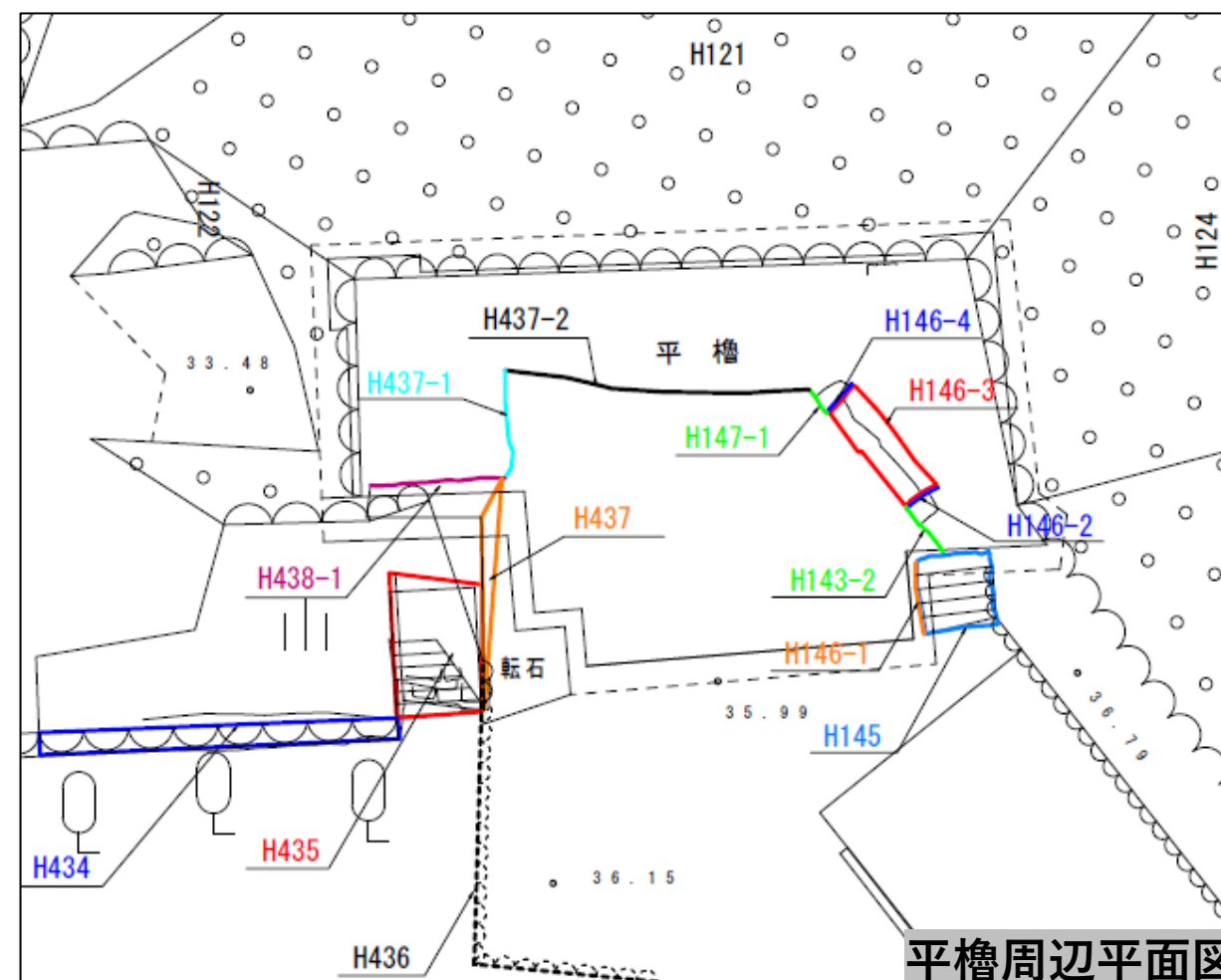
■今回の委員会での報告・審議事項

1 石材の取扱いについて【報告】

- ・H121、H122: 石材補修、新補石材の交換が**必要**
- 他の石垣面については石材補修、新補石材の交換は不要

2 解体範囲の見直しに伴う復旧勾配の変更【報告】

- ・R4.2.1修復検討委員会の現地視察にて最終解体範囲の承認を受け、R3.10.18修復検討委員会で承認済みの解体範囲案に変更が生じたため、復旧勾配の変更を報告する
- ・曲輪側石垣については隣接する石門北側石垣解体後に合わせて検討を行う



平櫓周辺平面図

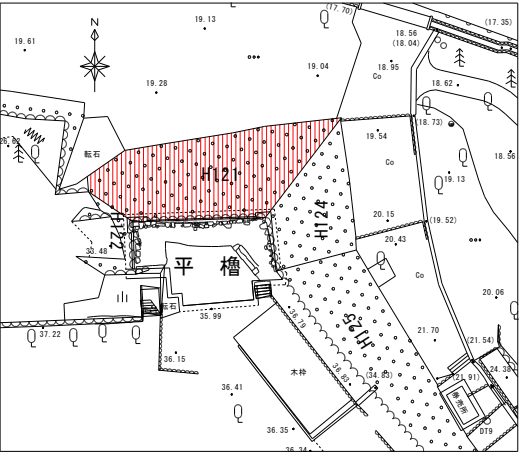
1 石材の取扱いについて【報告】

凡 例

種別	記号	割合	備考
新補石材		5/617石（ 1%）	
石材補修		3/617石（ 1%）	

※石材調査票より作成

位 置 図

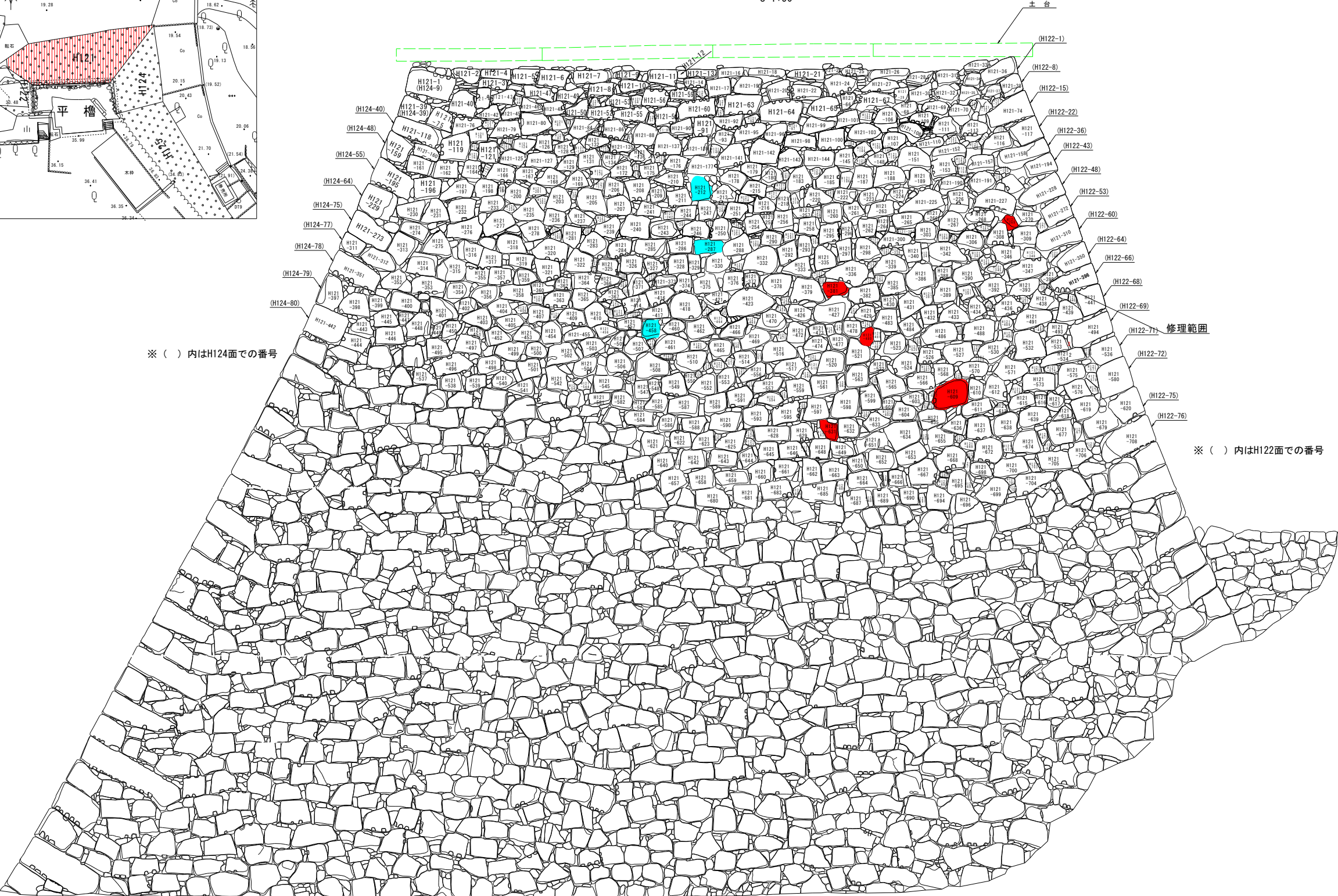


参考図 石材復旧取扱図（H121）

S=1:50

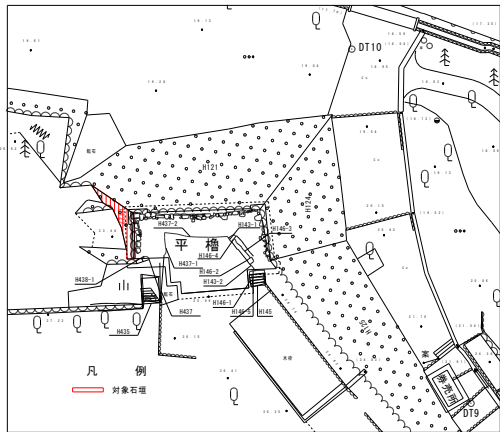
※（ ）内はH124面での番号

※（ ）内はH122面での番号

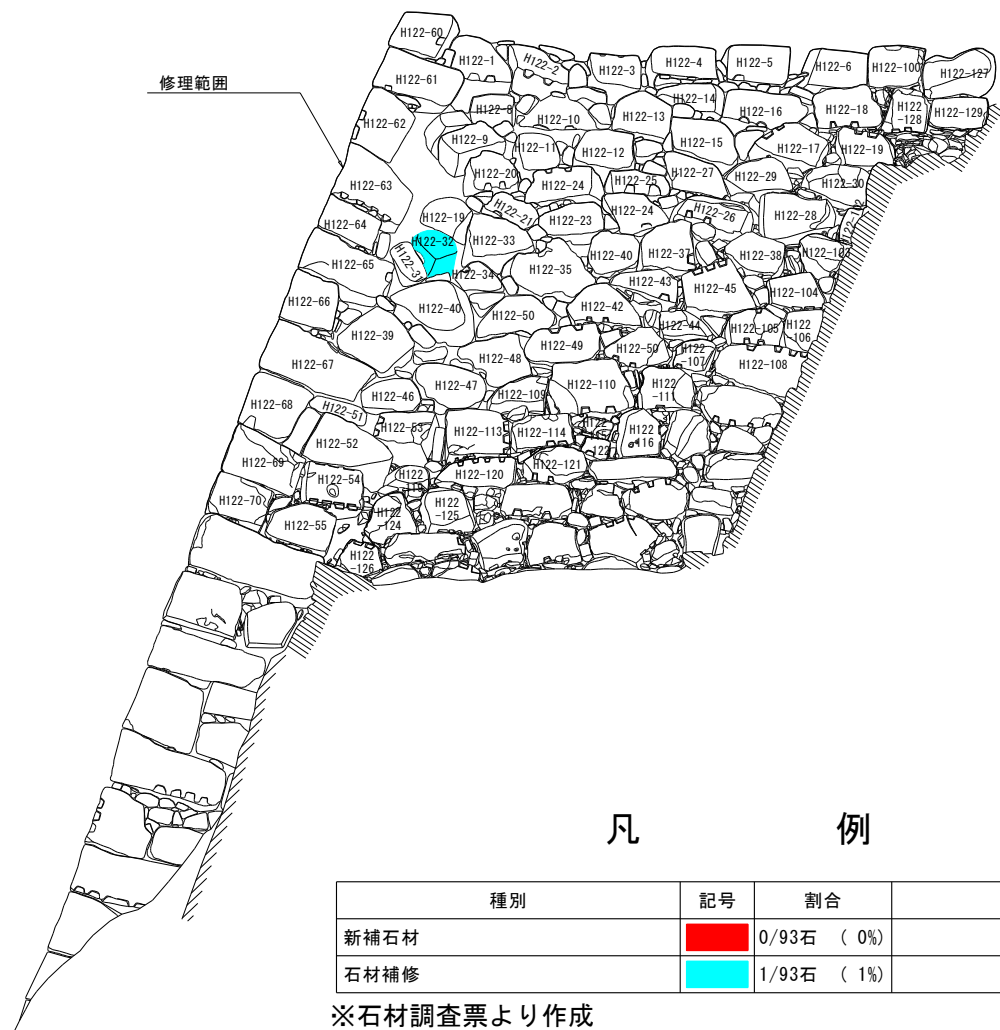


1 石材の取扱いについて【報告】

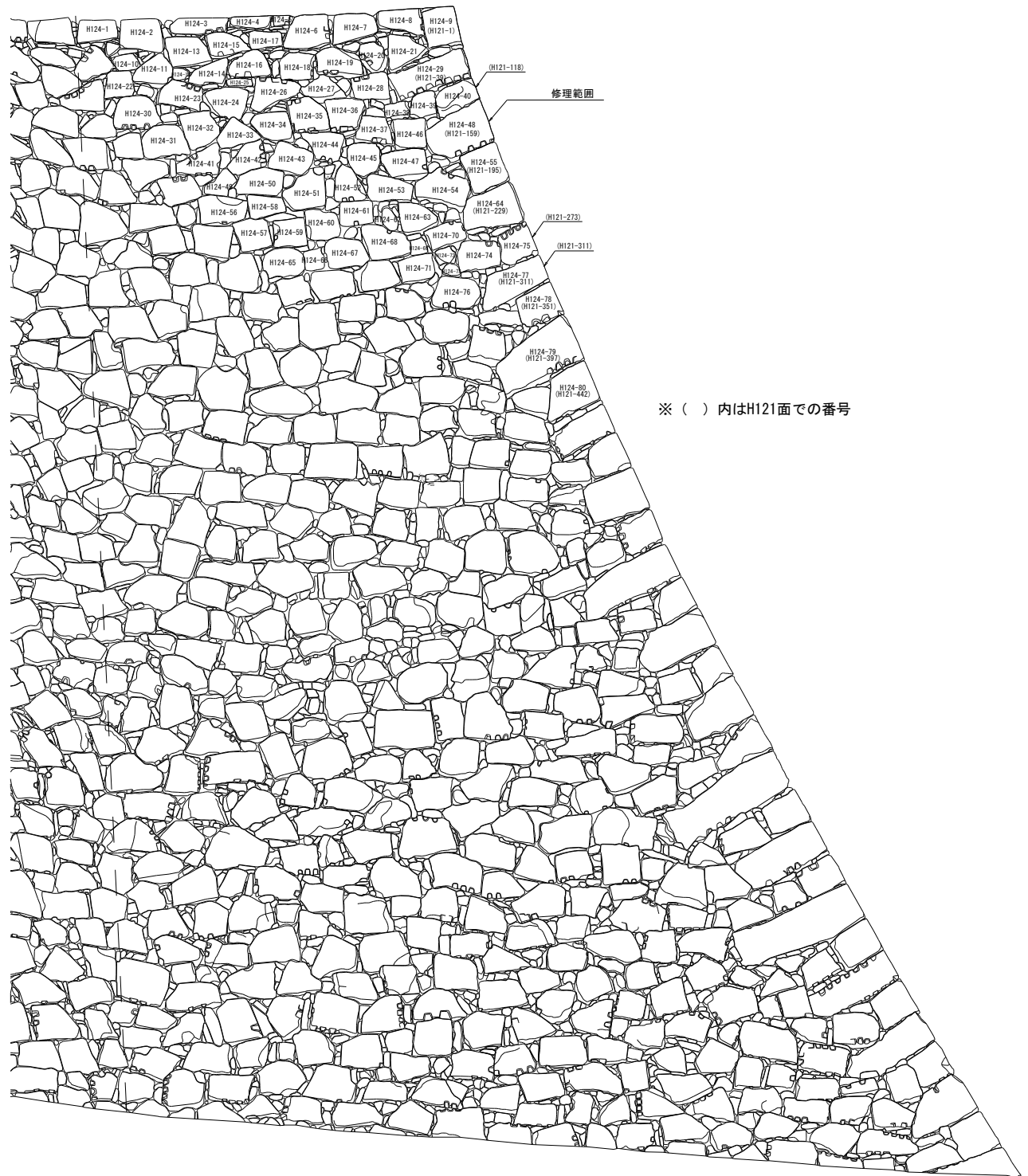
位置図



H122

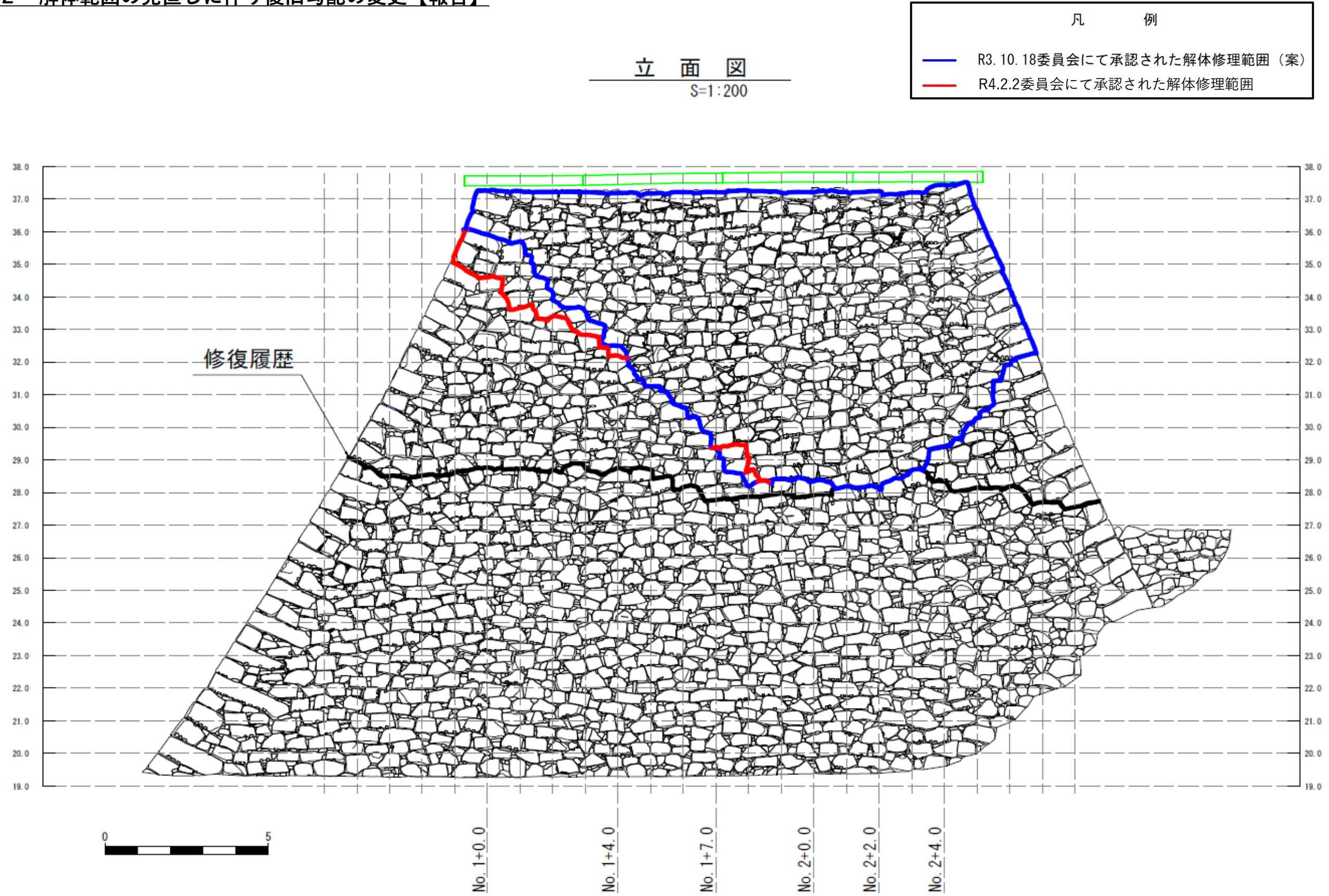


H124



※ () 内はH121面での番号

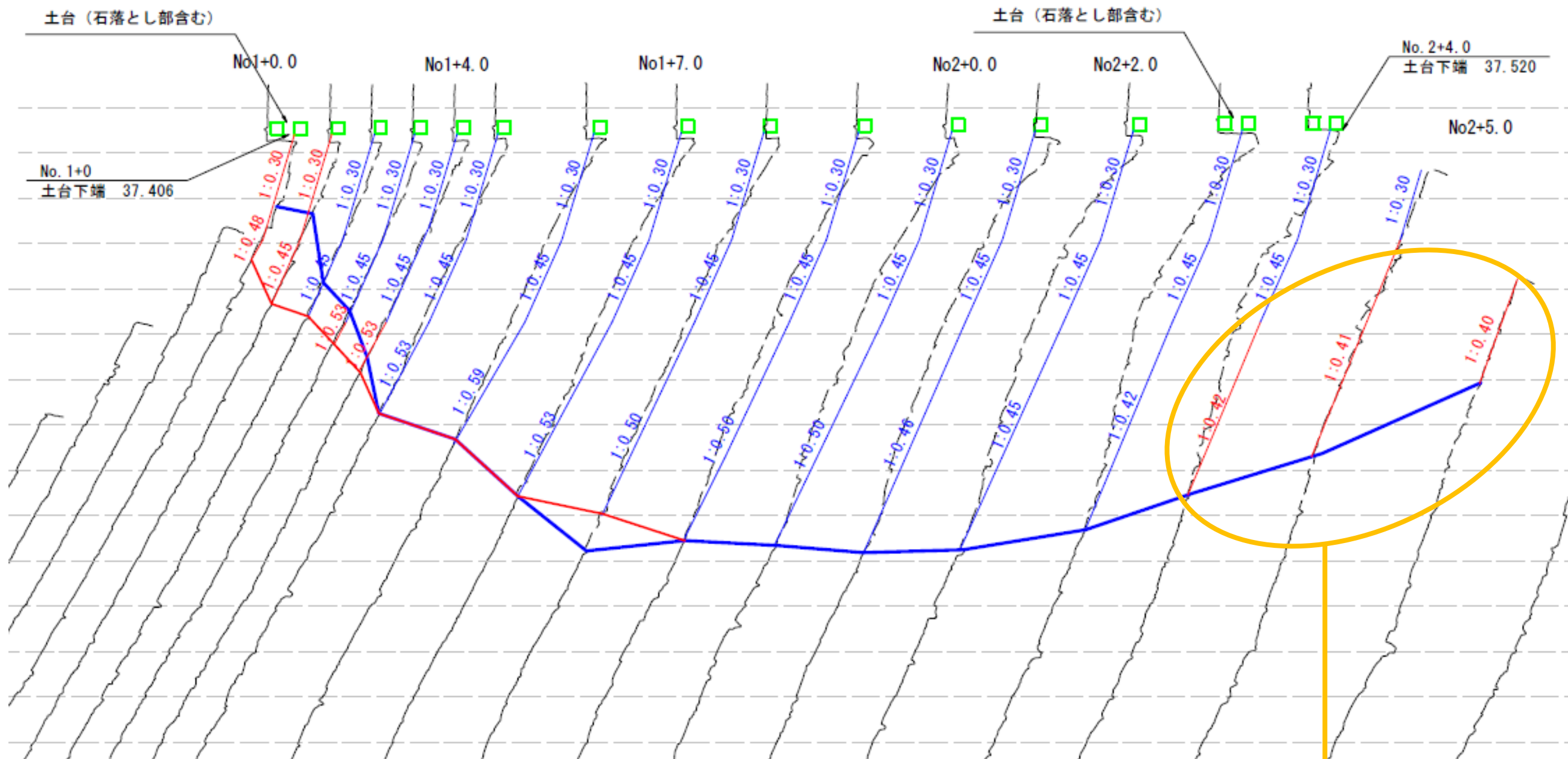
2 解体範囲の見直しに伴う復旧勾配の変更【報告】



2 解体範囲の見直しに伴う復旧勾配の変更【報告】

縦断図

S=1 : 200



R3.10.18委員会提示資料において 解体範囲下端と勾配が乖離して いた箇所について復旧勾配の変更